

# H30年度津市総合防災訓練 三重DMAT訓練(医療訓練)概要

三重県医療保健部  
地域医療推進課

## 【H30年度 三重DMAT訓練(医療訓練)の目的】

- ・災害対応にかかる関係団体と顔の見える関係の構築。
- ・災害態様(局所災害、大規模災害)に応じたDMATの役割の確認と周知。
- ・災害発生時の連絡体制の確認。
- ・多数傷病者発生病院からの患者搬送方法の確認。

# 平成30年度三重DMAT訓練概要

- 日時 平成30年10月28日(日)9時～11時30分
- 訓練会場 陸上自衛隊久居駐屯地  
※ 津市総合防災訓練の一部として実施
- 訓練想定 10/28 午前8時 布引山地東縁断層帯東部を震源とするM7.6の巨大地震発生(最大震度6強)。津市内中心に建物倒壊、火災発生、ライフライン寸断など甚大な被害が生じ、多数の負傷者が発生している。
- 参加DMAT 11病院から60名参加

# 津市訓練参加の経緯とメリット

## ● 経緯

南海トラフ地震等沿岸部が大きな被害を受けた際には、内陸部の災害拠点病院を中心に災害医療対応を行う可能性が高い。そのため、昨年津地域の災害拠点病院として、三重大学医学部附属病院に加えて三重中央医療センターを指定した。

例年、三重DMAT訓練は県総合防災訓練にあわせて実施してるが、今年度の訓練は国交省と合同であり、会場も四日市港であることから、内陸部の災害拠点病院における災害医療対応訓練の実施が困難であったため、訓練会場が三重中央医療センター近郊の陸上自衛隊久居駐屯地である津市総合防災訓練に参加を依頼した。

## ● 津市と合同で実施するメリット

ボランティアや中高生と協働した訓練が行えることに加え、さまざまな災害対応機関、地元住民が参加する訓練に参加することにより、DMAT活動への理解を促進するとともに、より地域に密着した「顔の見える関係」が構築できると期待している。

# 多数患者発生病院からの患者搬送ミッション



## 今回のDMAT訓練イメージ

災害拠点病院である三重中央医療センターに多数の傷病者が押し寄せ、県内外の病院へ患者転院搬送を行う必要があるため、自衛隊駐屯地を臨時ヘリポートとして活用して、以下のとおりの運用が可能かどうか検証。

- ・三重中央医療センターで患者安定化し、広域搬送する患者を選定(訓練上は、自衛隊駐屯地に仮想三重中央のエリアを設置)
- ・当該患者を病院保有の救急車等で駐屯地ヘリポート(グラウンド)へ搬送(上記の想定エリアから搬送)
- ・自衛隊ヘリ実機及び三重県ドクターヘリ(仮想)や陸送(仮想)で患者を被災地外へ搬送。
- ・関係団体及び地域住民(ボランティア団体等)との連携を密にする。⇒仮想三重中央への患者搬送の役割を担っていただく。



# 三重DMAT訓練(医療訓練)

